

日本の美「縁側」で表現

icon 東京五輪へ向け提案



iconが発表した「ENAGWA」コンセプト

選手村エントランスを想定

日本インテリアコーディネーター協会（icon）は6月15日、2017年度の定時総会を開くとともに、同協会のプロジェクトチームが進めてきた20年東京五輪・パラリンピックに向けた提案「ENAGWA」を発表した。家屋を含み日本の建築物に古くからある縁側をキーワードに、日本の美を再認識してもらえ、場の創造が基本コンセプトだ。

同プロジェクトは、会員からの提案が始まった。一輪に關わることで、大きな変革を齎らした機会。参加しなかったら後悔してしまう（森田ひるみさん）との思いで、19人のインテリアコーディネーターが関わっている。

「東京オリンピック・パラリンピック」の頭文字を取って、「TOPプロジェクト」として、活動を開始。約2年半にわたって構想を練っており、都や東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員会や関係機関との面談はこれまで13回以上あったという。

「ENAGWA」は、選手村住居のエントランスを訪れる超高齢化・多様な

iconは東京五輪・パラリンピックに向けて「ENAGWA」を発表した。中央は村上愛子会長



訪れる超高齢化・多様な本的美を表現する。また、五輪後間もなく

社会を昇進、コストを抑えながらR（リデュース、リユース、リサイクル）に対応できる、可変性・富んだ空間づくりを具体化していく。

これまでの活動を通じて、インテリアコーディネーター（IC）の職能について知られていない、という厳しい現実が分かった（山下祐司さん）。国レベルでは、競技会場をめぐる費用負担など結論が出ていないこともあり今後の流れは不透明だが、iconは企業との連携を進め、ICにも、周知活動にも力を入れていく。